仙台高等専門学校	総合工学科Ⅰ類（留学生）	開講年度	令和03年度 (2021年度)

学科到達目標

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	日本語Ⅰ	0001	履修単位	2	4																				武田 拓,梅木 俊輔	
一般	必修	日本語Ⅱ	0002	履修単位	2			4																		武田 拓,梅木 俊輔	
一般	必修	技術者の日本語Ⅰ	0003	履修単位	2	4																				梅木 俊輔	
一般	必修	技術者の日本語Ⅱ	0004	履修単位	2			4																		梅木 俊輔	
一般	必修	日本の社会と文化Ⅰ	0005	履修単位	2	2		2																		朱 琳	
一般	必修	日本語Ⅲ	0006	履修単位	2					4																朱 琳	
一般	必修	技術者の日本語Ⅲ	0007	履修単位	2					2		2														朱 琳	
一般	必修	日本の社会と文化Ⅱ	0008	履修単位	2					2		2														朱 琳	
一般	必修	日本語Ⅳ	0009	履修単位	2							4														朱 琳	
一般	必修	日本語Ⅴ	0010	履修単位	2									4												佐藤 和美,池田 智子	
一般	選択	数学	0011	履修単位	2									2		2										佐藤 公男	
一般	必修	日本語Ⅵ	0013	履修単位	2											4										佐藤 和美,池田 智子	
専門	選択	一般科学演習Ⅰ	0012	履修単位	2									2		2										岩井 克全	
一般	必修	日本語Ⅶ	0009	履修単位	2													2		2						佐藤 和美	
専門	必修	一般科学演習Ⅱ	0010	履修単位	2													4								岩井 克全	
専門	必修	一般科学演習Ⅲ	0011	履修単位	2															4						岩井 克全	

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本語Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	「大学の日本語初級ともだち vol. 2」（凡人社）,「留学生のための漢字の教科書 初級300［改訂版］」（国書刊行会),「日本語能力試験直前対策 N4 文字・語彙・文法」（国書刊行会）		
担当教員	武田 拓,梅木 俊輔		

到達目標

日本語初級前半レベルの学習者（CEFR／日本語教育スタンダードA2.1相当, 日本語能力試験N5相当）が、日常生活面と学業面の両者において、身近な話題を中心に短い文でのコミュニケーションが行えるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
日本語で読む	身近な話題を中心とする単文を適切に読むことができる。	身近な話題を中心とする単文をある程度適切に読むことができる。	身近な話題を中心とする単文を適切に読むことができない。
日本語で聞く	身近な話題を中心とする単文を適切に聞くことができる。	身近な話題を中心とする単文をある程度適切に聞くことができる。	身近な話題を中心とする単文を適切に聞くことができない。
日本語で書く	身近な話題を中心とする単文を適切に書くことができる。	身近な話題を中心とする単文をある程度適切に書くことができる。	身近な話題を中心とする単文を適切に書くことができない。
日本語で話す	身近な話題を中心に単文レベルのやりとりができる。	身近な話題を中心に単文レベルのやりとりがある程度できる。	身近な話題を中心に単文レベルのやりとりができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	寮生活や学校の授業等、身近な話題について、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を中心に行う。
授業の進め方・方法	基本的に教科書に沿って進める。また、教室内で学んだことをもとに、友達・先輩・後輩・教員・職員といった教室外の人々と上手く関わっていくための課題も行う。 授業では授業前課題と授業後課題を毎回指示するので、次回授業までに行ってくること。
注意点	開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容・使用教科書を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	「大学の日本語初級ともだち vol. 2」 １３課　国の習慣 学習項目：１．Vてもいいです，２．｛A-くては／A-では／Nでは｝いけません，３．｛V／A-く／A-で／Nで｝なければなりません，４．｛V／A-く／A-で／Nで｝なくてもいいです，５．NはVことです，６．Vことは｛A｝です 「留学生のための漢字の教科書 初級300［改訂版］」 １課（1-20）	１．許可を求める／与える／断ることができる ２．国の規則について簡単な日本語で聞き合うことができる ３．趣味や将来の希望について聞き合うことができる ４．日本の習慣についての説明文を読んで理解できる ５．日本と自国の習慣を比較することができる
		3週	１４課　私ができること 学習項目：１．Nができます、NをVことができます，２．NがV（Potential Form），３．Vようになりました，４．（もし）｛Vたら／A-かったら／A-だったら／Nだったら｝、～，（もし）｛V／A-く／A-で／Nで｝なかったら、～，５．V１たら、V２ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ２課（21-40）	１．スポーツ、外国語、料理、車の運転ができるかどうか、聞き合うことができる ２．ある場所で何ができるか述べることができる ３．「もし、Vたらどうしますか」を使って聞き合うことができる
		4週	１５課　道を聞く 学習項目：１．NをV／NがV，２．NがVています，３．Nが｛見えます／聞こえます｝，４．｛におい／味／音｝がします，５．［Place］をV（歩きます），６．〈Reason〉。それで、〈Result〉，７．｛A-く／A-に／Nに｝します，８．｛A-く／A-に｝V 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ３課（41-60）	１．自国の食べ物や料理の味について述べることができる ２．道の行き方を聞き合うことができる
		5週	１６課　私の町 学習項目：１．Ｎ１はＮ２が～，２．｛V／A／A／N｝（Plain Form）んです，３．｛Vた／Vない｝ほうがいいです，４．Ｎ１はＮ２より～，５．Ｎ１とＮ２（と）ではどちら（のほう）が～ー～のほうが～／ー どちらも～，６．Ｎ１はＮ２ほど＋Neg.，７．～ではNがいちばん～ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ４課（61-80）	１．友達を誘うことができる―理由を述べて断ることができる ２．病気の症状を聞いてアドバイスすることができる ３．二つを比較して、好きなのはどちらかを聞き合うことができる ４．一番好きなもの／ことを聞き合うことができる ５．東京と自分の町を比べることができる ６．「私の町」を聞いて理解できる。「私の町」というテーマで作文を書き、発表できる

		6週	１７課　日本でびっくりしたこと 学習項目：１．｛V／A-い／A-だ／Nだ｝と、～，２．Vたことがあります，３．Ｖ１ながら、Ｖ２，４．Ｎ１と（いうの）は{Ｎ２の／V}ことです，５．｛V／A}すぎます，６．｛V／A／N｝（Plaim Form）のはNです 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ５課（81-100）	１．道の行き方を聞き合うことができる ２．日本文化に関する経験の有無を聞き合うことができる ３．「日本でびっくりしたこと」について作文を書き、発表できる
		7週	１８課　将来の計画 学習項目：１．Vう／よう（Volitional Form)と思っています，２．｛V／Vない｝つもりです，３．｛V／Nの｝ためにＶ２，４．Ｖ１てＶ２／Ｖ１ないでＶ２，５。（たとえば）Ｎ１のようなＮ２，（たとえば）Nのように～，６．（まるで）Nのようです，（まるで）Nのように～／Ｎ１のようなＮ２ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ６課（101-120）	１．日本の食べ物や店について、知っているかどうか聞き、誘うことができる ２．将来の計画を述べることができる ３．日本で生活したり、漢字を覚えたりするために、どんなことをしているか聞き合うことができる ４．将来、どんな人になりたいか、どんな町に住みたいかについて発表できる ５．比喩表現を比較できる
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	１９課　アドバイス 学習項目：１．｛Vば／A-ければ／A-なら（ば）／Nなら（ば）｝、～，２．｛Vても／A-くても／A-でも／Nでも｝、～，３．Vなら、～，４．｛V／A-い／A／N｝でしょう，｛Vない／A-く／A-では／Nでは｝ないでしょう，５．｛V／A／N｝（Plain Form）かもしれません，６．Ｎ１も{V／A／N｝（Plain Form）し、Ｎ２も～ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ７課（121-140）	１．生活上のアドバイスをし合うことができる ２．天気予報を聞くことができる ３．ある人物について、どんな人か述べることができる ４．食事に行く店はどこがいいか決めて、その理由を述べることができる ５．国のおすすめの料理、おみやげ、泊まるところなどについて聞き合うことができる
		10週	２０課　うれしかったこと 学習項目：１．｛Vて／ないで｝おきます，２．NがVてあります，３．{Ｖ１／Ｖ１ない}ようにV2，４．［Person］１は［Person］２｛に／から｝Nをいただきます、［Person］１は私にNをくださいます，Ｐ１はP２｛に／を｝Vてあげます／さしあげます、Ｐ１はP2にVてもらいます／いただきます、Ｐ１は私｛に／を｝Vてくれます／くださいます 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ８課（141-160）	１．事前に準備しておくことが言える ２．「Vてあります」を使って、ペアで相手の状態を聞き合うことができる ３．「Vてくれました／くださいました」を使って話すことができる ４．友達や知り合いにお礼のメールを書くことができる
		11週	２１課　国の料理 学習項目：１．｛Vて／A-くて／A-で／Nで｝、～，２．｛A／V｝そうです，３．｛Vの／VN｝に｛V（使います）／A（必要です）｝，４．Vてしまいます，５．Ｎ１｛で／から｝Ｎ２を作ります 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 ９課（161-180）	１．びっくりしたことや、うれしいと思うことについて述べることができる ２．災害についての会話を聞いて、理解できる ３．友達の表情や態度から、何があったか聞き合うことができる ４．何かをするのに、どのぐらい／いくらぐらいかかるか聞き合うことができる ５．自国の料理の作り方を書き、発表できる
		12週	２２課　ことばと文字 学習項目：１．［Person］１は［Person］２にＶ（Passive Form），２．［Person］１は［Person］２に（Nを）Ｖ（Passive Form），３．［Person］１はN（かばん）をＶ（Passive Form），４．雨にふられました，５．［Thing］｛は／が｝Ｖ（Passive Form） 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 １０課（181-200）	１．自分のいやな／困った経験について、受身形を使って述べることができる ２．自国でどんな文字や言語が使われているか説明できる ３．国で人気のある食べ物、飲み物、祭りなどについて聞き合うことができる
		13週	２３課　友達から聞いたこと 学習項目：１．［Person］１は［Person］２をＶ（Causative Form），２．［Person］１は［Person］２にNをＶ（Causative Form），３．［Person］１は［Person］２をＶ（わらわせます），４．Ｎ｛によると／では｝、｛V／A／N｝（Plain Form）そうです，５．｛Nの／Vている｝間、～、｛Nの／Vている｝間に、～［Time］までに～ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 １１課（201-220）	１．親になったら、子どもに何を習わせたいか聞き合うことができる ２．どんなことをして親や先生を心配させたか述べることができる ３．友達から聞いた話を他の人に伝えることができる ４．日本の結婚式に着て行く服やあげるものについての会話が理解できる ５．日本の人に日本のことについての情報が本当かどうか聞くことができる ６．「～間」「～間に」を使って今後の予定などを言うことができる
		14週	２４課　依頼 学習項目：１．Vてきました、Vていきます，２．｛V／A／N｝（Plain Form）ようです，３．｛V／A／N｝（Plain Form）のに、～，４．Vて｛いただけませんか／くださいませんか｝，５．Ｖ（さ）せて｛ください／くださいませんか／いただけませんか｝，６．敬語表現（＝Honorific Expressions） 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 １２課（221-240）	１．グラフを見て、数の増減について述べることができる ２．先生に敬語表現を使って、ていねいに依頼することができる ３．ていねいに許可を求めることができる ４．ていねいなメールを書くことができる ５．謙譲語を使って自己紹介できる ６．温泉旅館の説明を聞き、理解できる ７．先生のお宅に電話がかけられる
		15週	期末試験	
		16週	まとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表・技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材	「科学技術基礎日本語：留学生・技術研修生のための使える日本語」（凡人社），「日本語能力試験直前対策 N3 文字・語彙・文法」（国書刊行会）		
担当教員	武田 拓,梅木 俊輔		

到達目標

日本語初級前半レベルの学習者（CEFR／日本語教育スタンダードA2.2相当, 日本語能力試験N4相当）が、日常生活面と学業面の両者において、日々繰り返されるパターン化された場面に加え、パターンから外れた予期していない場面で、文レベルのコミュニケーションが適切に行えるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
日本語で読む	予期していない場面で文を適切に読むことができる。	予期していない場面で文をある程度適切に読むことができる。	予期していない場面で文を適切に読むことができない。
日本語で聞く	予期していない場面で文を適切に聞くことができる。	予期していない場面で文をある程度適切に聞くことができる。	予期していない場面で文を適切に聞くことができない。
日本語で話す	予期していない場面で文を適切に話すことができる。	予期していない場面で文をある程度適切に話すことができる。	予期していない場面で文を適切に話すことができない。
日本語で書く	予期していない場面で文を適切に書くことができる。	予期していない場面で文をある程度適切に書くことができる。	予期していない場面で文を適切に書くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	パターンから外れた予期していない場面で文レベルのコミュニケーションを行うために必要となる日本語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に高める。
授業の進め方・方法	授業では、教科書に沿いながら、テーマに関連がある、新聞・インターネットの記事、ニュース・ドキュメンタリーのテレビ番組等からの実例を用い進める。また、教室内で学んだことをもとに、友達・先輩・後輩・教員・職員といった教室外の人々と上手く関わっていくための課題も行う。授業では授業前課題と授業後課題を毎回指示するので、次回授業までに行ってくること。
注意点	開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容・使用教科書を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 「科学技術基礎日本語：留学生・技術研修生のための使える日本語」 第１課　数の読み方 学習項目：数字、桁の大きい数、少数、分数、倍数、べき数、累乗根 第２課　式の読み方 学習項目：四則演算、和、差、積、商、余り、イコール、等しい、大なり、小なり、記号、かっこ、かっことじ	学習項目が運用できる：「端数の処理」、「数の種類」、「式の読み方」
		2週	第３課　割合を表す表現・あいまいな表現 学習項目：比例、反比例、割合を表す表現（比／比率、対、割、%、倍）、あいまいな表現（約、およそ、ほぼ、程度、前後、ほど） 第４課　図形（１）平面図形の名前 学習項目：点、線（直線、曲線、点線）、角度、直角、垂直、平行／水平、交点、頂点、辺、面、角、対角線、対頂角、接線、接点、中心、三角形、四角形、多角形、円	学習項目が運用できる：「数学記号」、「平面図形の記述」
		3週	第５課　図形（２）空間／立体図形の名前 学習項目：立方体、直方体、平行六面体、三角柱、四角柱、円柱、三角すい、四角すい、円すい、底面、球 第６課　図形に関する表現 学習項目：長さ、縦、横、高さ、底辺、円周、中心、半径、直径、奥行、幅、底面、厚さ	学習項目が運用できる：「立体図形の記述」
		4週	第７課　単位 学習項目：長さ、大きさ／広さ（面積）、大きさ（体積）、重さ（質量）、圧力、角度、温度、熱量、時間 第８課　位置を表す表現 学習項目：位置の表現（前、後ろ、右、左、横、隣、斜め、斜め前、斜め後ろ、まわり、上、下、真下、真横、手前、間）、面の名前（正面／前面、背面／後面、真正面、側面、上面、下面／底面、表面／表側、裏面／裏側	学習項目が運用できる：「量／程度の記述」、「位置の記述」

		5週	第９課　手を動かす基本動作 学習項目：持つ、放す、握る、つかむ、つまむ、触れる／さわる、押さえる、もむ、こする、拭く、はらう、たたく、打つ、つつく 第１０課　ものを動かす基本動作（１） 学習項目：上げる、下げる、上下させる、押す、引く、引っ張る、立てる、倒す、傾ける、落とす、つるす、回す、振る	学習項目が運用できる：「手に関する表現による記述」、「ものを動かす動作の記述（１）」
		6週	第１１課　ものを動かす基本動作（２） 学習項目：載せる、下ろす／降ろす、積む、合わせる、ずらす、重ねる、挟む、近付ける、離す、覆う、かぶせる、ふたをする、栓をする 第１２課　ものの形を変える基本動作（１） 学習項目：伸ばす、縮める、折る、たたむ、巻く、広げる、曲げる、折り曲げる、ねじる	学習項目が運用できる：「ものを動かす動作の記述（２）」、「ものの形を変える動作の記述（１）」
		7週	中間試験	
		8週	第１３課　ものの形を変える基本動作（２） 学習項目：切る、切り取る、切り抜く、切断する、穴をあける、破る、裂く、ちぎる、削る、割る、砕く、折る、つぶす、すりつぶす 第１４課　道具や手を使う動作（１） 学習項目：書く、描く、線を引く、塗る、消す、はる、はがす、留める、とじる、束ねる、巻く、通す、結ぶ、ほどく	学習項目が運用できる：「ものの形を変える動作の記述（２）」、「道具や手を使う動作の記述（１）」、「文房具のいろいろ」
	4thQ	9週	第１５課　道具や手を使う動作（２） 学習項目：しめる／しめつける、ゆるめる、はめる／はめ込む、はずす／取りはずす、取る、挿入する／差し込む、抜く／引き抜く、挟む、つまむ、はかる／測定する 第１６課　水を使う動作 学習項目：洗う／洗浄する、すすぐ、たらす、注ぐ、流す、混ぜる、かき混ぜる／かくはんする、溶かす、濡らす、浸す、絞る、乾かす／乾燥する	学習項目が運用できる：「道具や手を使う動作の記述（２）」、「工具のいろいろ」、「はかるための道具」、「水を使う動作の記述」
		10週	第１７課　火を使う動作 学習項目：火をつける／点火する、火を消す、熱する／加熱する、温める、沸かす、焼く、燃やす／燃焼させる、焦がす、冷やす／冷ます／冷却する 第１８課　電気を使う動作 学習項目：電気をつける／電気を消す、点滅させる、電源を入れる／オンにする、電源を切る／オフにする、切り換える、ボリュームを上げる、ボリュームを下げる、つなぐ／接続する、はずす	学習項目が運用できる：「火を使う動作の記述」、「電気を使う動作の記述」
		11週	第１９課　物質の三態と材質 学習項目：物質の三態、材質 第２０課　目で見た性質・状態（１） 学習項目：色	学習項目が運用できる：「物質の状態の記述」、「材質の記述」、「性質・状態（色）の記述」
		12週	第２１課　目で見た性質・状態（２） 学習項目：形状表現 第２２課　目で見た性質・状態（３） 学習項目：立っている／立った、傾いている／傾いた、倒れている／倒れた、真っすぐ（な／の）、曲がっている／曲がった、折れている／折れた、など	学習項目が運用できる：「性質・状態（形状）の記述」、「性質・状態（現状）の記述」
		13週	第２３課　目で見た性質・状態（４）擬態語 学習項目：ぎざぎざ、くしゃくしゃ、ぐにゃぐにゃ、など 第２４課　手でさわった性質・状態（１） 学習項目：重い、軽い、硬い、柔らかい、もろい、など	学習項目が運用できる：「目で見た性質・状態の擬態語による記述」、「手でさわった性質・状態の記述」
		14週	第２５課　手でさわった性質・状態（２）擬態語 学習項目：ざらざら、すべすべ、つるつる、など 第２６課　耳で聞いた性質・状態　擬音語 学習項目：ぽたぽた、ちょろちょろ、ざーざー、かちゃかちゃ、など	学習項目が運用できる：「手でさわった性質・状態の擬態語による記述」、「耳で聞いた性質・状態の擬音語による記述」
		15週	第２７課　変化を表す表現 学習項目：上がる、下がる、上下する、増える、減る、伸びる、縮む、膨らむ、しぼむ、浮く、沈む、濁る、澄む	学習項目が運用できる：「変化の記述」
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術者の日本語Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	1年生留学生が対象となる科目（日本語を除く）の使用教材		
担当教員	梅木 俊輔		

到達目標

教科学習に必要となる日本語運用に馴染み、周囲のサポートを全面的に受けつつ、教科学習が効果的に進められるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
日本語で読む	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系教科書を読むことができる	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系教科書をある程度読むことができる	周囲のサポートを全面的に受けても、理数系教科書を読むことができない
日本語で聞く	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系講義を聞くことができる	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系講義をある程度聞くことができる	周囲のサポートを全面的に受けても、理数系講義を聞くことができない
日本語で話す	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のやりとりに参加することができる	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のやりとりにある程度参加することができる	周囲のサポートを全面的に受けても、理数系授業のやりとりに参加することができない
日本語で書く	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のノート・技術文書を書くことができる	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のノート・技術文書をある程度書くことができる	周囲のサポートを全面的に受けても、理数系授業のノート・技術文書を書くことができない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科目の目的は、初めて日本に長期留学する１学年の留学生が、全面的なサポートを受けながら、前期に履修する理数系専門科目の授業についていくために必要となる、日本語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を総合的に高めることにある。
授業の進め方・方法	各理数系科目担当教員と連携し、１年生の理数系授業で使われる日本語について、各科目の使用教材を中心に行う予習・復習により、定着化を図る。また、これらを通じ、効果的にことばを調べる方法や周囲に対するサポートの求め方といった学習スキルについても実践形式で取り組む。 授業では授業前課題と授業後課題を毎回指示するので、次回授業までに行ってくること。
注意点	開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業計画を理解し、前期の取り組みに自分なりの見通しが立てられるようになる。
		2週	理数系教科書を読むための日本語I①	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系教科書を読んで理解できるようになる。
		3週	理数系講義を聞くための日本語I①	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系の講義を聞いて理解できるようになる。
		4週	理数系講義を聞くための日本語I①	理数系の教室・研究室で使われる日本語に馴染み、周囲のサポートを全面的に受けつつ、簡単なやり取りができるようになる。
		5週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語I①	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のノートを書くことができるようになる。
		6週	理数系教科書を読むための日本語I②	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系講義での板書やスライド、配布資料を読んで理解できるようになる。
		7週	理数系講義を聞くための日本語I②	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業での様々な指示を聞いて理解できるようになる。
		8週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語I②	理数系の授業でのグループワークやディスカッションに周囲のサポートを全面的に受けつつ、参加できるようになる。
	2ndQ	9週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語I②	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業の発表資料（スライド、レジュメ等）を作成することができるようになる。
		10週	理数系教科書を読むための日本語I③	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業でクラスメイトが書いたノートやレジュメを読んで理解できるようになる。
		11週	理数系講義を聞くための日本語I③	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のグループワークやディスカッションでの発言を聞いて理解できるようになる。
		12週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語I③	理数系授業における実験・研究・発表を周囲のサポートを全面的に受けつつ、行うことができる。
		13週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語I③	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系のレポートを書くことができるようになる。
		14週	まとめ①	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。
		15週	まとめ②	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。

		16週	まとめ③	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術者の日本語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ｉ類（留学生）	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材	１年生留学生が対象となる科目（日本語を除く）の使用教材		
担当教員	梅木 俊輔		

到達目標

教科学習に必要となる日本語運用に馴染み、周囲のサポートをある程度受けつつ、教科学習が効果的に進められるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
日本語で読む	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系教科書を読むことができる	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系教科書をある程度読むことができる	周囲のサポートをある程度受けても、理数系教科書を読むことができない
日本語で聞く	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系講義を聞くことができる	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系講義をある程度聞くことができる	周囲のサポートをある程度受けても、理数系講義を聞くことができない
日本語で話す	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系授業のやりとりに参加することができる	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系授業のやりとりにある程度参加することができる	周囲のサポートをある程度受けても、理数系授業のやりとりに参加することができない
日本語で書く	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系授業のノート・技術文書を書くことができる	周囲のサポートをある程度受けつつ、理数系授業のノート・技術文書をある程度書くことができる	周囲のサポートをある程度受けても、理数系授業のノート・技術文書を書くことができない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科目の目的は、日本に長期留学する１学年の留学生が、ある程度のサポートを受けながら、後期に履修する理数系専門科目の授業についていくために必要となる、日本語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を総合的に高めることにある。
授業の進め方・方法	各理数系科目担当教員と連携し、１年生の理数系授業で使われる日本語について、各科目の使用教材を中心に行う予習・復習により、定着化を図る。また、これらを通じ、効果的にことばを調べる方法や周囲に対するサポートの求め方といった学習スキルについても実践形式で取り組む。 授業では授業前課題と授業後課題を毎回指示するので、次回授業までに行ってくること。
注意点	開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	ガイダンス内容の理解
		2週	理数系教科書を読むための日本語II ①	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系教科書を読んで理解できるようになる。
		3週	理数系講義を聞くための日本語II①	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系の講義を聞いて理解できるようになる。
		4週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語II①	理数系の教室・研究室で使われる日本語に馴染み、周囲のサポートを全面的に受けつつ、簡単なやり取りができるようになる。
		5週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語II①	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のノートを書くことができるようになる。
		6週	理数系教科書を読むための日本語II②	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系講義での板書やスライド、配布資料を読んで理解できるようになる。
		7週	理数系講義を聞くための日本語II②	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業での様々な指示を聞いて理解できるようになる。
		8週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語II②	理数系の授業でのグループワークやディスカッションに周囲のサポートを全面的に受けつつ、参加できるようになる。
	4thQ	9週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語II②	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業の発表資料（スライド、レジュメ等）を作成することができるようになる。
		10週	理数系教科書を読むための日本語II③	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業でクラスメイトが書いたノートやレジュメを読んで理解できるようになる。
		11週	理数系講義を聞くための日本語II③	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系授業のグループワークやディスカッションでの発言を聞いて理解できるようになる。
		12週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語II③	理数系授業における実験・研究・発表を周囲のサポートを全面的に受けつつ、行うことができる。
		13週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語II③	周囲のサポートを全面的に受けつつ、理数系のレポートを書くことができるようになる。
		14週	まとめ①	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。
		15週	まとめ②	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。

		16週	まとめ③	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本の社会と文化Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	初級からの日本語スピーチ（国際交流基金関西国際センター、2018）、自作資料。		
担当教員	朱 琳		

到達目標

1　講義を通して、日本の文化、生活様式、社会の構造や性質、日本人の物の考え方について大まかな理解ができるようになる。
2　特定の話題についてまとまった発表ができるようになり、日本語で母国の文化・社会に関する内容を紹介できる。
3　特定の話題に関するスピーチを準備するプロセスにおいて、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」4技能を磨き、日本語を応用する能力を伸ばす。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本の文化と社会に関する基本的な事柄がよく理解できる。	日本の文化と社会に関する基本的な事柄がある程度理解できる。	日本の文化と社会に関する基本的な事柄がまったく理解できない。
評価項目2	自然な日本語で母国の文化を紹介することができる。ジェスチャーなどを活用しながら、流暢にスピーチすることができる。	日本語で母国の文化を紹介することができる。まとまりのあるスピーチをすることができる。	日本語で母国の文化を紹介することができない。
評価項目3	日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で、物事を考えることができる。	日本文化と自文化の違いを理解しようとし、グローバルな視点で物事を考えようとする姿勢がある。	日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で、物事を考えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	日本の社会と文化 Iは、初級段階の留学生を対象とし、できるだけ早く日本文化に順応することを目標とする。特に、日本語の応用力と日本文化に対する理解とのバランスを考えつつ、国際的な視野の涵養を重要視する。授業はおおむね二つのパーツが含まれ、一つは、日本語の応用力を伸びるためのスピーチ訓練、もう一つは、日本の文化、生活様式、社会の構造や性質、日本人の物の考え方を学ぶための講義である。受講者はこの授業を通して、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」4技能を身につけ、国際的な視点から自国文化と日本文化を深く理解する。
授業の進め方・方法	基本的には、「語彙・表現の学び→発表→発表のフィードバック→講義」という流れで授業を進めていくが、自作資料・新聞記事・ビデオ等の副教材を活用すると共に、文化理解をテーマとしたインタビュー・発表などのプロジェクトをふんだんに取り入れる。受講者は、語学力を上達すると同時に、生の日本文化に触れつつ、自文化を振り返る。前期の授業では、まず「年中行事」、「国の概況」、「観光」、「歴史」、「経済産業」などの話題を取り上げ、基本なスピーチを自力で構成できるようになる。後期の授業では、より複雑なスピーチを構成できるよう、「習慣」、「人間関係」、「社会問題」などの話題を通して、「対比」、「因果関係」、「分析」などの表現法を身につける。
注意点	ほかの参考資料、自作資料などを随時に配布する。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の内容、進め方、授業評価などを知る。
		2週	１．まつり	自国の年中行事を紹介し、日本の年中行事について理解する。
		3週	２．地理、民族、宗教	自国の地形、民族、宗教を紹介し、日本の概況を知る。
		4週	２．地理、民族、宗教	自国の地形、民族、宗教を紹介し、日本の概況を知る。
		5週	３．私の仕事	自分の将来のやりたい仕事について紹介し、現代日本人の仕事観について理解する。
		6週	３．私の仕事	自分の将来のやりたい仕事について紹介し、現代日本人の仕事観について理解する。
		7週	４．観光	自国の観光資源を紹介し、日本の観光地や交通機関の利用法について理解する。
		8週	復習	１～４までの内容を振り返る。
	2ndQ	9週	５．歴史	自国の歴史を紹介し、日本の歴史の基本知識を知る。
		10週	５．歴史	自国の歴史を紹介し、日本の歴史の基本知識を知る。
		11週	６．私の国と日本の関係	政治、経済、文化などの視点から、自国と日本との関係を調べ、紹介する。
		12週	６．私の国と日本の関係	政治、経済、文化などの視点から、自国と日本との関係を調べ、紹介する。
		13週	７．結婚	自国の婚姻観や結婚に関する文化などを紹介し、現代日本の結婚事情を理解する。
		14週	８．産業と貿易	自国の産業・貿易を紹介し、日本の産業と貿易の概況を理解する。
		15週	復習とまとめ	５～８の内容を振り返る
		16週	期末評価	期末試験
後期	3rdQ	1週	９．経済と人々の生活	自国の経済事情を紹介し、日本の物価や経済と人々の生活との関係を理解する。

		2週	９．経済と人々の生活	自国の経済事情を紹介し、日本の物価や経済と人々の生活との関係を理解する。
		3週	１０．対比する「習慣の違い」	日本の文化上・社会上の習慣を理解し、自国と比較する。
		4週	１０．対比する「習慣の違い」	日本の文化上・社会上の習慣を理解し、自国と比較する。
		5週	１１．因果関係１「教育の問題」	日本の教育問題を理解し、自国と比較する。
		6週	１１．因果関係１「教育の問題」	日本の教育問題を理解し、自国と比較する。
		7週	１２．変化を説明する「日本（日本人）のイメージ」	日本に対するイメージを発表し、ステレオタイプと国際理解について学ぶ。
		8週	１２．変化を説明する「日本（日本人）のイメージ」	日本に対するイメージを発表し、ステレオタイプと国際理解について学ぶ。
	4thQ	9週	１３．分析する「人間関係」	日本人の人間関係の構築を理解し、自国と比較する。
		10週	１３．分析する「人間関係」	日本人の人間関係の構築を理解し、自国と比較する。
		11週	１４．因果関係２「社会問題」	日本での身近な社会問題を理解し、自国と比較する。
		12週	１４．因果関係２「社会問題」	日本での身近な社会問題を理解し、自国と比較する。
		13週	１５．出来事を語る「いやな体験」	日本に来てからの生活を振り返り、自分の体験を紹介する。
		14週	１５．出来事を語る「いやな体験」	日本に来てからの生活を振り返り、自分の体験を紹介する。
		15週	復習とまとめ	以上の内容を振り返る。
		16週	期末評価	期末試験

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習課題	合計
総合評価割合	40	20	0	0	20	20	100
基礎的能力	20	10	0	0	10	10	50
専門的能力	20	10	0	0	10	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本語Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ｉ類（留学生）	対象学年	2
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』（スリーエーネットワーク、2019）、『日本語能力試験直前対策 N2 文字・語彙・文法』（日本語能力試験問題研究会、2011）		
担当教員	朱 琳		

到達目標

日本語中級前半レベルの学習者（CEFR／日本語教育スタンダードB1.2相当, 日本語能力試験N3相当）が、日常生活面と学業面の両者において、日々繰り返されるパターン化した場面を中心に、文レベルのコミュニケーションができるだけでなく、談話レベルでまとまりを持つ内容のコミュニケーションができるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を読むことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度読むことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を読むことができない
評価項目2	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を聞くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度聞くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を聞くことができない
評価項目3	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を話すことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度話すことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を話すことができない
評価項目4	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を書くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度書くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を書くことができない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	パターン化した場面を中心に、談話レベルでまとまりを持つ内容のコミュニケーションに必要となる日本語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に高める。
授業の進め方・方法	授業では、教科書に沿い、テーマに関連がある、新聞・インターネットの記事、ニュース・ドキュメンタリーのテレビ番組等からの実例を使いながら進める。また、教室内で学んだことをもとに、友達・先輩・後輩・教員・職員といった教室外の人々と上手く関わっていくための課題も行う。
注意点	・授業では予習と授業前課題を毎回指示するので、授業前に行ってくること。 ・開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容・使用教科書を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	１課　音楽と音の効果 学習項目： １．カタカナ語，２．～のだろうか，３．～わけがない/～わけではない，４．名詞修飾節の「の」，５．こそ，６．より	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「音楽と音の効果」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「音とリラックスについて話す」 ・書く：「私の好きな歌」
		3週	２課　いい数字・悪い数字 学習項目： １．～というN，２．～ほど～はない，３．～からすると，４．～より，５．数字について読む・聞く	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「いい数字・悪い数字」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「自国のいい数字・悪い数字について」 ・書く：「好きな数字・特別な数字」
		4週	３課　「面白い」日本 学習項目： １．以来，２．何～も，３．文章と会話の中の「こ・そ・あ」，４．～ということだ，５．までもない， ６．N1であろうと、N2であろうと，７．（移動動詞）ている	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「『面白い』日本」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「電車の中の様子について」 ・書く：「日本に来て分かったこと」
		5週	４課　くしゃみ 学習項目： １．とたん，２．複合動詞（～だす・込む），３．とともに，４．助詞+「の」，５．～の途中，６．擬音語・擬態語，７．～ことに	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「くしゃみ」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「動物の鳴き声をどう表すか話す」 ・書く：「くしゃみ」
		6週	5課　私の町 学習項目： １．つつある，２．を中心に，３．「ところに」・「ところで」，４．意志動詞・無意志動詞の整理，５．らしい・そうだ・ようだ ６．げ	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「私の町」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「好きな建物について話す」 ・書く：「メールの書き方：近況報告」
		7週	復習、定期テスト、解説	上記の内容を復習する

		8週	6課　この日に食べなきゃ、意味がない 学習項目： １．話し言葉，２．にとって，３．ずにはいられない，４．～としたら，５．「ことになる」・「ことにする」，６．グラフの言葉	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「この日に食べなきゃ、意味がない」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「自国の正月・特別な日に食べる料理」 ・書く：「正月料理・特別な料理」
	2ndQ	9週	7課　お相撲さんの世界 学習項目： １．だらけ・まみれ，２．～ないと、～ないからだ，３．～のたびに，４．に加えて，５．（数字）は，６．ないように，7．動詞くる，８．接続詞・副詞の整理	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「お相撲さんの世界」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「どんな職業について関心があるか」 ・書く：「仕事のよい面・大変な面」
		10週	8課　第一印象 学習項目： １．にすぎない，２．Nさえ～ば／～なら，３．さえ・しか・こそ，４．というものではない，５．かねない，６．ものの	学習項目の用法を理解し、４技能において運用できる ： ・読む：「第一印象」 ・聞く：「聴解タスクシート」 ・話す：「印象・自信があることの自己チェック」 ・書く：「人に会う時、気をつけていること」
		11週	日本文学講読	エッセイ、小説など文学作品を講読・鑑賞することによって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。
		12週	日本文学講読	エッセイ、小説など文学作品を講読・鑑賞することによって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。
		13週	日本文学講読	エッセイ、小説など文学作品を講読・鑑賞することによって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。
		14週	日本文学講読	エッセイ、小説など文学作品を講読・鑑賞することによって、今まで学んだ文型・表現を振り返り、定着する。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・フィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表・技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術者の日本語Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	なし		
担当教員	朱 琳		

到達目標

教科学習に必要となる日本語運用に馴染み、教科学習が基本的には周囲のサポートをほとんど受けることなく自立的に進められるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系教科書を読むことができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系教科書をある程度読むことができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系教科書を読むことができない。
評価項目2	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系講義を聞くことができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系講義をある程度聞くことができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系講義を聞くことができない。
評価項目3	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のやりとりに参加することができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のやりとりにある程度参加することができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のやりとりに参加することができない。
評価項目4	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のノート・技術文書を書くことができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のノート・技術文書をある程度書くことができる。	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のノート・技術文書を書くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科目の目的は、2学年の留学生が履修する理数系専門科目の授業において、基本的には周囲のサポートをほとんど受けることなく、自立的に学習を進めていくために必要となる日本語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を総合的に高めることにある。
授業の進め方・方法	各理数系科目担当教員と連携し、2年生の理数系授業で使われる日本語について、各科目の使用教材を中心に行う予習・復習により、定着化を図る。また、これらを通じ、各自の専門分野に応じた語彙リストの作り方や授業外での自習用教材の探し方といった学習スキルについても実践形式で取り組む。
注意点	・授業では予習と授業前課題を毎回指示するので、授業前に行ってくること。 ・開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業計画を理解し、前期の取り組みに自分なりの見通しが立てられるようになる。
		2週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ（前期）①	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系教科書を読んで理解できるようになる。
		3週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ（前期）①	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系の講義を聞いて理解できるようになる。
		4週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ（前期）①	理数系の授業・研究室で使われる日本語に馴染み、周囲のサポートをしばしば受けつつ、簡単なやり取りができるようになる。
		5週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語Ⅲ（前期）①	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系授業のノートを書くことができるようになる。
		6週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ（前期）②	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系講義での板書やスライド、配布資料を読んで理解できるようになる。
		7週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ（前期）②	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系授業での様々な指示を聞いて理解できるようになる。
		8週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ（前期）②	理数系の授業でのグループワークやディスカッションに周囲のサポートをしばしば受けつつ、参加できるようになる。
	2ndQ	9週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語Ⅲ（前期）②	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系授業の発表資料（スライド、レジュメ等）を作成することができるようになる。
		10週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ（前期）③	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系授業でクラスメイトが書いたノートや発表資料を読んで理解できるようになる。
		11週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ（前期）③	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系授業のグループワークやディスカッションでの発言を聞いて理解できるようになる。
		12週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ（前期）③	理数系授業における実験・研究・発表を周囲のサポートをしばしば受けつつ、行うことができる。
		13週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語Ⅲ（前期）③	周囲のサポートをしばしば受けつつ、理数系のレポートを書くことができるようになる。
		14週	まとめ（2週～7週分）	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。

		15週	まとめ（8週～13週分）	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。
		16週	学習の振り返りとフィードバック	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業計画を理解し、後期の取り組みに自分なりの見通しが立てられるようになる。
		2週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ（後期）①	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系教科書を読んで理解できるようになる。
		3週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ（後期）①	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系の講義を聞いて理解できるようになる。
		4週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ（後期）①	理数系の授業・研究室で使われる日本語に馴染み、周囲のサポートをほとんど受けることなく、簡単なやり取りができるようになる。
		5週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語Ⅲ（後期）①	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のノートを書くことができるようになる。
		6週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ（後期）②	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系講義での板書やスライド、配布資料を読んで理解できるようになる。
		7週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ（後期）②	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業での様々な指示を聞いて理解できるようになる。
		8週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ（後期）②	理数系の授業でのグループワークやディスカッションに周囲のサポートをほとんど受けることなく、参加できるようになる。
	4thQ	9週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語Ⅲ（後期）②	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業の発表資料（スライド、レジュメ等）を作成することができるようになる。
		10週	理数系教科書を読むための日本語Ⅲ（後期）③	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業でクラスメイトが書いたノートや発表資料を読んで理解できるようになる。
		11週	理数系講義を聞くための日本語Ⅲ（後期）③	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系授業のグループワークやディスカッションでの発言を聞いて理解できるようになる。
		12週	理数系授業のやりとりに参加するための日本語Ⅲ（後期）③	理数系授業における実験・研究・発表を周囲のサポートをほとんど受けることなく、行うことができる。
		13週	理数系授業のノート・技術文書を書くための日本語Ⅲ（後期）③	周囲のサポートをほとんど受けることなく、理数系のレポートを書くことができるようになる。
		14週	まとめ（2週～7週分）	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。
		15週	まとめ（8週～13週分）	既習事項の総合復習をし、定着化を図る。
		16週	学習の振り返りとフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	発表	技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	35	35	30	100
基礎的能力	35	35	30	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本の社会と文化Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ｉ類（留学生）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	クローズアップ日本事情１５、中・上級学習者向け日本語教材日本文化を読む、Japan's Cultural Code Words		
担当教員	朱 琳		

到達目標

1　日本の文化、生活様式、社会の構造や性質、日本人の物の考え方について大まかな理解ができ、発表できるようになる。
2　自文化との比較分析を通して、グローバルな視点を養いつつ、第二言語としての日本語の学習を通して新たに芽生える日本話者アイデンティティと自文化アイデンティティの調和に臨む。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本の文化と社会に関する基本的な事柄がよく理解でき、発表を効果的に行なうことができる。	日本の文化と社会に関する基本的な事柄がある程度理解でき、発表をある程度効果的に行なうことができる。	日本の文化と社会に関する基本的な事柄がまったく理解できず、発表を行なうことができない。
評価項目2	日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で、物事を考えることができる。	日本文化と自文化の違いを理解しようとし、グローバルな視点で物事を考えようとする姿勢がある。	日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で、物事を考えることができない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	日本の社会と文化IIにおいては、日本の社会と文化Ｉに引き続き、日本の文化、生活様式、社会の構造や性質、日本人の物の考え方を深く学んでいく。日本の年間行事にも直に触れる体験をなるべく多く提供し、自文化と比較する課題もその都度与える。また、自己の文化との比較を通して、第一言語・自己文化と日本語・日本文化の比較分析を行なえるような「考える力」の育成にも取り組む過程において、第二言語習得の際、浮上するアイデンティティ形成の問題にも対応する。
授業の進め方・方法	英日の読解を基本に授業を進めていくが、解説本・問題集・インターネット記事・ビデオ等の副教材を活用すると共に、文化理解をテーマとしたインタビュー・発表・ポートフォリオなどのプロジェクトをふんだんに取り入れ、生の日本の文化に触れつつ、学生が自文化を振り返りながら、積極的に参加できるようなアクティビティ・ラーニングを意識した様々な活動を提供していく。又、季節ごとに日本の年間行事を紹介し、実際に文化体験する機会を与え、自文化との比較を促すプロジェクトを課す。
注意点	

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	Unit1 日本ってどんな国？	日本の地形、四季について大まかに理解し、自国や他国と比較し、発表できる。
		3週	Unit1 日本ってどんな国？	日本の地形、四季について大まかに理解し、自国や他国と比較し、発表できる。
		4週	Unit 2 都市の暮らし・地方の暮らし	日本の都道府県、地方創生について理解し、自国や他国と比較し、発表できる。
		5週	Unit 2 都市の暮らし・地方の暮らし	日本の都道府県、地方創生について理解し、自国や他国と比較し、発表できる。
		6週	Unit 3　日本の旅を楽しもう	日本の交通機関について理解し、自国や他国と比較し、発表できる。
		7週	Unit4 いただきます！	日本の食文化について理解し、自国や他国と比較し、発表できる。
		8週	復習とまとめ	
	2ndQ	9週	Unit５季節を楽しむ年中行事	季節に即した日本の年間行事を理解し、日本と自文化の年間行事を比較し、発表できる。
		10週	Unit５季節を楽しむ年中行事	季節に即した日本の年間行事を理解し、日本と自文化の年間行事を比較し、発表できる。
		11週	Unit 6　知っておきたい日本の歴史	日本の歴史について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。
		12週	Unit 7 伝統文化体験	日本の主な伝統文化について理解し、自国と比較し発表できる。
		13週	Unit８現代文化とポップカルチャー	日本の主な現代文化について理解し、自国と比較し発表できる。
		14週	Unit８現代文化とポップカルチャー	日本の主な現代文化について理解し、自国と比較し発表できる。
		15週	復習とまとめ	
		16週	期末評価	
後期	3rdQ	1週	前期授業の振り返り	

		2週	Unit９スポーツの楽しみ方	日本のスポーツ文化について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。
		3週	Unit１０前進を続ける科学技術	日本の科学技術について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。
		4週	Unit１０前進を続ける科学技術	日本の科学技術について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。
		5週	Unit１１地球のためにできること	地球環境問題と日本の立ち位置を考え、発表できる。
		6週	Unit１１地球のためにできること	地球環境問題と自国の立ち位置を考え、発表できる。
		7週	Unit１２教育と子供たち	日本の教育問題について理解し、自国と比較し発表できる。
		8週	復習とまとめ	
	4thQ	9週	Unit１３産業構造と経済	日本の産業構造と経済を理解し、自国と比較し発表できる。
		10週	Unit１３産業構造と経済	日本の産業構造と経済を理解し、自国と比較し発表できる。
		11週	Unit１４政治と憲法	日本の政治と憲法を理解し、自国と比較し発表できる。
		12週	Unit１４政治と憲法	日本の政治と憲法を理解し、自国と比較し発表できる。
		13週	Unit１５多文化共生社会を目指して	グローバル社会について考え、発表できる。
		14週	Unit１５多文化共生社会を目指して	グローバル社会について考え、発表できる。
		15週	復習とまとめ	プレゼンテーション準備
		16週	期末評価	プレゼンテーションの実践

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習課題	合計
総合評価割合	40	20	0	0	40	0	100
基礎的能力	20	10	0	0	20	0	50
専門的能力	20	10	0	0	20	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本語Ⅳ

科目基礎情報

科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	2
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材	『中級を学ぼう　日本語の文型と表現82』（エリーエーネットワーク）、『新完全マスター文法N2』（エリーエーネットワーク）、ほか適宜資料配布		
担当教員	朱 琳		

到達目標

日本語中級後半レベルの学習者（日本語能力試験N2相当）が、日常生活面と学業面の両者において、日々繰り返されるパターンから外れた予期していない場面で、相手との社会的関係や話題に注意を払いつつ、それにふさわしい談話レベルでまとまりを持つ内容のコミュニケーションができるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1　読む能力	問題なく新聞、雑誌、一般向けの書籍などを読み、内容を理解することができる。	自力で調べながら、新聞、一般向けの書籍などを読み、内容を理解することができる。	新聞、一般向けの書籍などを読めず、調べる方法も分からない。
評価項目2　聞く能力	授業、日常生活、テレビ番組などの場面で9割以上の内容が聞き取れる。	授業、日常生活、テレビ番組などの場面で7割以上の内容が聞き取れる。	授業、日常生活、テレビ番組などの場面で聞き取れた内容が半分以下。
評価項目3　話す能力	授業で取り上げられた話題、日常生活などの場面で自分の言いたいことを自由に話せる。	若干不自然な表現があっても、授業で取り上げられた話題、日常生活などの場面で自分の言いたいことを相手に伝える。	授業で取り上げられた話題、日常生活などの場面で自分の言いたいことを相手にまったく伝えない。
評価科目4　書く能力	与えられたテーマについて、たとえそれは自分のよく知らない分野だとしても、自力でまとまりのある文章を書ける。	与えられたテーマについて、自力でまとまりのある文章を書ける。	与えられたテーマについて、まとまりのある文章を書けない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	談話レベルでまとまりを持つ内容のコミュニケーションに必要となる日本語の４技能（読む・聞く・話す・書く）について、様々な相手・話題に対する応用力を高める。
授業の進め方・方法	授業では、教科書に沿いながら、テーマに関連がある、新聞・インターネットの記事、ニュース・ドキュメンタリーのテレビ番組等からの実例を用い進める。また、教室内で学んだことをもとに、友達・先輩・後輩・教員・職員といった教室外の人々と上手く関わっていくための課題も行う。
注意点	・授業では予習と授業前課題を毎回指示するので、授業前に行ってくること。 ・開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容・使用教科書を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	
		2週	第1課　色 １．～という、２．～基づく～、３．～と同時に、 ４．～による～、５．～際	読む：病院の色 聞く：ポストの色 話す：「好きな色」に関して、クラスメートにインタビュー 書く：私の国の国旗
		3週	第2課　ユーモア・ジョーク １．～とする、２．～にかけて、３．～から～にかけて、４．～さえ、５．さえ～ない、６．～なんて、 ７．～ことで／～ことによって、８．～ように思われる	読む：エープリルフール 聞く：世界最大のハンバーガー 話す：母国と日本のジョークについて調べて発表する 書く：新聞記事を書く
		4週	第3課　制服 １．～を問わず、２．～をめぐって／～をめぐるN、 ３．～ところ、４．～ことなく、５．～向き、 ６．～向け、７．～における～／～において、 ８．～上	読む：学校の制服 聞く：我が社の制服 話す：面接における不可欠な服装マナー 書く：制服は必要か不必要か
		5週	第4課　算数 １．～に至る、２．～から～に至るまで、３．～うえで、４．～なり、５．VタN、６．～という点／～点、 ７．～にかかわる	読む：計算の方法を説明する 聞く：形の説明 話す：生きていくうえで大切なことについて、教員にインタビューする 書く：なぜ大学に行くのか
		6週	第5課　遊びと運動 １．～をもたらす、２．～に対して、３．「～に対して／～にとって」の整理、４．～ばかりでなく～も／～だけでなく～も、５．～を通して／～を通じて、 ６．接続詞の整理	読む：子供の遊び 聞く：体操 話す：遊びと勉強との関係について発表する 書く：子供の時によくした遊び
		7週	第6課　お金 １．～ぶり、２．～とはいえ／とはいっても、 ３．～当たり、４．たとえ～も、５．～やら、～やら、６．～のやら、～のやら、７．～のやら、８．「～と、～」の整理	読む：古くなったお札の行方 聞く：2000円札 話す：電子マネーについて発表する 書く：自国の通貨
		8週	まとめと復習	
	4thQ	9週	中間試験	

		10週	第7課　水 １．～に関する～、２．～ない限り、３．～限り、 ４．～がち～、５．～っぱなし、６．～以上に、 ７．～以上、８．～抜きにしては～ない、９．～抜きの～、１０．～おかげで／～せいで	読む：水への関心 聞く：有料の飲み水 話す：母国の環境問題について調査し、発表する 書く：社会中で見られる無駄遣い
		11週	第8課　遺伝 １．～にもかかわらず、２．～につれて、３．～に例えられる／～に例える、４．～に違いない、５．～得ない／～得る、６．ありえない（驚き）、７．得る（できる）	読む：南米の先住民は全員O型？ 聞く：ゲノム 話す：ゲノム編集に関するディベート 書く：血液型による性格判断
		12週	第9課　漫画・アニメ・本 １．～っぽい／～っぽさ、２．～といってもいい、 ３．～にしても、４．～つつ、５．副詞の整理、 ６．～めく	読む：座談会「漫画について」 聞く：漫画やアニメが学べる大学 話す：好きな本を紹介する 書く：読書歴
		13週	第10課　ヒトと動物 １．～かのように、２．～結果、３．～までになる、 ４．～に比べて／～と比べて、５．「もの」の整理、 ６．～のに対して／～のに対し	読む：ヒトのことばと鳥の歌 聞く：皇帝ペンギンの親子 話す：日本語での動物に関することわざを調べて、母国語と比較して発表する 書く：日本語を学習するうえで気をつけること
		14週	まとめと復習	
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・フィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表・技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本語Ⅴ

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	3
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	①大学・大学院留学生の日本語 作文編（アルク）②大学・大学院留学生の日本語 読解編（アルク）③毎日の聞きとりplus40（凡人社）④Intermediate Kanji Book（凡人社）⑤新完全マスターN1語彙（スリーエーネットワーク）　⑥テーマ別上級で学ぶ日本語改訂版（研究社）		
担当教員	佐藤 和美,池田 智子		

到達目標

1.有意義な留学生活を送るために、情報受信力（聞く・読む）と発信力（話す・書く）両方のバランスのよいコミュニケーションができるようになる。
2.漢字、語彙の一層の強化をはかり、適切な文章を書いたり、発話できるようになる。社説のような文を読み理解し、さらにそれに対する自分の考察も日本語でできるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
読む	未習の語彙が含まれる文章を類推を用いて読むことが出来る。	辞書を用いて文章を読むことが出来る。	文章を読むのに大きな手助けを必要とする。
聞く	まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返せば、まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返しても、まとまりのあるテキストを聞いて全体から類推して情報を得ることが難しい。
話す	身近な話題について、自分の考え・意見を述べることが出来る。	こちらの手助けがあれば、身近な話題について、自分の考え・意見を述べることが出来る。	自分の考え・意見を述べることが難しい。
書く	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことが出来る	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことがやや難しい。	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	高専生活に適応していくために必要な日本語力を養成する。教材には日本事情・日本文化・時事的話題・科学読み物など幅広い分野を取り上げ、実際の使われ方を重視した授業活動・課題を用いて進める。予備教育で学んだ日本語を基礎に、語彙・漢字・表現力を広げ、伸ばしながら4技能（聞く・話す・読む・書く）のバランスの取れた日本語力を身につける。口頭表現（会話・報告・意見発表・スピーチなど）及び作文表現（メール・手紙・レポート・一般作文など）の力を養い、専門科目履修効果を高めると共に、コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業の進め方・方法	授業はタスク活動・演習を中心に行うので積極的に参加することが求められる。 （事前学習）ある程度分量のある日本語を読んだり聞いたりすることを通し、その中で使われる語彙・文法を身につける活動が授業の中心となるので、事前に内容に目を通し語彙などの確認をしておくことが望ましい。 （事後学習）授業後は小テストに備えての復習と毎回出されるテーマに基づいた作文の作成にあたること。
注意点	開講後、学生の日本語能力を判断した上で、授業内容や教科書を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	作文：表記の仕方 聴解：日本人の名字 漢字：漢字の仲間 語彙：性格/人柄/人間関係/付き合い 教科書：コロンブスの卵	・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・学習や研究の基礎となる語彙や表現法を音声教材を通して習得する。 ・漢字の成り立ちを知る ・性格・人間関係に関する語彙の強化 ・ニュースを聞いて内容を伝える練習と習得
		2週	読解：言葉の役割 作文：文体と書きことば 漢字：反対語の漢字 語彙：日常生活/医療健康 教科書：コロンブスの卵	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・対になる漢字の強化 ・日常生活・健康に関する語彙強化 ・文法の強化
		3週	読解：イルカと超音波 聴解：100円ショップ 漢字：漢語の動詞（１） 語彙：芸術/スポーツ 教科書：コロンブスの卵	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・学習や研究の基礎となる語彙や表現法を音声教材を通して習得する。 ・漢語の語構成を意識する ・芸術・スポーツに関する語彙強化 ・まとまった文の内容理解強化
		4週	読解：睡眠時間ー短眠と長眠 作文：段落に分ける 漢字：漢語の形容詞 語彙：教育 教科書：コロンブスの卵	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・形容詞になる漢語を意識する ・教育に関する語彙強化 ・プレゼンテーション力強化

		5週	聴解：じゃんけん 作文：「は」と「が」 漢字：漢語の形容詞 語彙：仕事 教科書：宇宙人のぼやき	・学習や研究の基礎となる語彙や表現法を音声教材を通して習得する。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・形容詞になる漢語を意識する ・仕事に関する語彙強化 ・ニュースを聞いて、内容を伝える練習と習得
		6週	読解：日時計 作文：テーマを述べる 漢字：同音の漢字 語彙：メディア 教科書：宇宙人のぼやき	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・同音異義語の強化 ・メディアに関する語彙強化 ・文法強化
		7週	聴解：あいさつの思わぬ効 作文：理由・経過を述べる 漢字：同音の漢字 語彙：経済/産業 教科書：宇宙人のぼやき	・学習や研究の基礎となる語彙や表現法を音声教材を通して習得する。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・同音異義語の強化 ・経済・産業に関する語彙強化 ・まとまった文の内容理解強化
		8週	読解：風呂場の戸 作文：定義をする 漢字：漢語の語構成 語彙：政治/法律/歴史 教科書：宇宙人のぼやき	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・漢字の語構成を意識する ・政治・法律・歴史に関する語彙の強化 ・プレゼンテーション力強化
	2ndQ	9週	聴解：暖かい色、冷たい色 読解：手で数を表す 漢字：漢語の語構成 語彙：社会問題 教科書：エネルギー物語	・学習や研究の基礎となる語彙や表現法を音声教材を通して習得する。 ・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・漢字の語構成を意識する ・格差社会・少子高齢化問題に関する語彙強化 ・ニュースを聞いて内容を伝える練習と習得
		10週	読解：茶はどのようにして伝わったか 作文：判明していることを述べる 漢字：漢語の動詞（２） 語彙：自然/地形 教科書：エネルギー物語	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・副詞的使われる漢字を意識する ・自然・地形に関する語彙強化 ・文法の強化
		11週	聴解：回転寿司 作文：問題点を述べる 漢字：漢字の音訓 語彙：技術 教科書：エネルギー物語	・学習や研究の基礎となる語彙や表現法を音声教材を通して習得する。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・同音異義語の強化 ・技術に関する語彙強化 ・まとまった文の内容理解強化
		12週	読解：「タ」と『ハタケ」 作文：引用する 漢字：漢字の音訓 語彙：時間/空間 教科書：エネルギー物語	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・漢字の音訓の強化 ・時間・空間に関する語彙強化 ・プレゼンテーション力強化
		13週	聴解：太鼓のひびき 作文：解決策を述べる 漢字：同訓の漢字 語彙：関係/変化 教科書：健康ブームの光と影	・学習や研究の基礎となる語彙や表現法を音声教材を通して習得する。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・漢字の音訓の強化 ・関係・変化に関する語彙強化 ・ニュースのリスニング強化
		14週	読解：カラスの自動車利用行動 作文：手順を述べる 漢字：類義語の漢字 語彙：名詞 教科書：健康ブームの光と影	・専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術の養成。 ・専門的な文章を書くために必要な表現、文法、及び作文の基礎の習得 ・意味が沢山ある名詞の語彙強化 ・副詞の強化 ・文法の強化
		15週	試験	
		16週	答案返却とフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	課題	作文	授業への取組みと小レポート	合計
総合評価割合	35	15	40	10	100
総合評価	35	15	40	10	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	数学

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ｉ類（留学生）	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学，新基礎数学問題集，新線形代数，新線形代数問題集，新微分積分Ｉ，新微分積分Ｉ問題集（以上，高遠節夫ほか，大日本図書）		
担当教員	佐藤 公男		

到達目標

代数幾何（関数と方程式，指数と対数，図形，三角関数，数列，ベクトル，行列）と微分積分I（増減，導関数，不定積分，定積分，面積と体積）の日本語による表記と基礎概念を理解し，その基本的な性質を利用して具体的な計算ができるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
代数幾何	教科書のほとんど問題を自力で解ける。	誘導を与えられることにより，教科書レベルの問題がほとんど自力で解ける。	誘導を与えても，教科書レベルの問題がほとんど解けない。
微分積分I	教科書のほとんど問題を自力で解ける。	誘導を与えられることにより，教科書レベルの問題がほとんど自力で解ける。	誘導を与えても，教科書レベルの問題がほとんど解けない。
微分積分II	教科書のほとんど問題を自力で解ける。	誘導を与えられることにより，教科書レベルの問題がほとんど自力で解ける。	誘導を与えても，教科書レベルの問題がほとんど解けない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本校３年次の数学科目や専門科目の学習に必要となる２年次までに履修する数学を修得する。日本語による表記を理解し，不足している学習内容を補完し，３年次編入留学生の３年次授業への移行を補助する。また，学力に応じて３年次の数学科目及びその専門基礎科目への応用についての復習も行う。
授業の進め方・方法	前期は代数幾何を中心に，後期は微分積分を中心に進める。日本語による表記の質疑応答，例題や演習を通した理解度，及び専門基礎科目への応用力の確認を行う。事前学習として，次回の授業内容（教科書）を確認しておくこと，事後学習として，教科書の演習問題を解きながら復習を毎回欠かさずに行うこと。
注意点	対面式による質疑応答確認に加えて，オンデマンド式（自学）による演習を行う。積極的に演習に取り組むことが大切である。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	代数：数と式	・自然数（正の整数），整数，分数，有理数，無理数，実数，平方根，約数，倍数，最大公約数，最小公倍数という日本語が解る。 ・素因数分解，有理化の計算ができる。
		2週	代数：２次関数	・関数，２次関数，象限という日本語が解る。 ・２次関数のグラフが描ける。 ・２次関数の最大値と最小値が求められる。
		3週	代数：２次方程式	・複素数，実(数)部，虚(数)部という日本語が解る。 ・２次方程式の解の公式が使える。 ・２次方程式の解の判別式が使える。 ・２次関数と直線との交点が求められる。
		4週	代数：２次不等式	・２次不等式が示す範囲が解る。
		5週	代数：命題と等式と関数	・集合，命題，恒等式という日本語が解る。 ・高次方程式，高次不等式が解る。 ・平行移動，対称移動ができる。 ・べき関数，分数関数，無理関数，逆関数の形が解る。
		6週	代数：指数関数と対数関数	・累乗，累乗根，対数という日本語が解る。 ・指数関数，対数関数のグラフが描ける。
		7週	幾何：三角関数	・正弦，余弦，正接という日本語が解る。 ・三角形の面積，辺の長さ，角度を使った計算ができる。 ・加法定理，余弦定理を用いて計算できる。
		8週	幾何：平面上の図形	・直線，円，楕円の方程式が解る。 ・２直線の交点を求めることができる。 ・直線や円の不等式による領域が求められる。 ・重心，外心，内心，垂心という日本語が解る。
	2ndQ	9週	代数：場合の数	・場合の数，順列，組合せという日本語が解る。 ・二項定理を使って式を展開できる。
		10週	代数：数列	・等差数列，等比数列，無限数列，その他の様々な数列について知っている。 ・数学的帰納法という日本語が，どのような方法であるかが解る。
		11週	微分I：増加と減少，極大と極小，最大値と最小値	・関数，接線，増加と減少，極大と極小，最大値と最小値が求められる。
		12週	微分I：合成関数と対数関数と指数関数と三角関数	・合成関数，対数関数，指数関数，三角関数の微分ができる。

		13週	積分I：不定積分と定積分	・置換積分法，部分積分法を使った不定積分ができる。 ・置換積分法，部分積分法を使った定積分ができる。
		14週	積分I：面積や体積	・直線や曲線によって囲まれた様々な形の図形の面積や体積を求めることができる。
		15週	幾何：ベクトルと図形	・ベクトルの演算（和，実数との積），の内積を求めることができる。 ・演算の代表的な法則（交換，結合，分配など）を知っている。
		16週	代数：行列と行列式	・行列の演算（和，実数との積，積），逆行列を求めることができる。 ・演算の代表的な法則（交換，結合，分配など）を知っている。 ・固有値，固有ベクトルという日本語が解る。
後期	3rdQ	1週	微分II：２次関数の凹凸	・２次関数の凹凸が解る。
		2週	微分II：逆関数	・逆関数を求めることができる。 ・逆三角関数の微分ができる。
		3週	微分II：極限値	・極限値を求めることができる。
		4週	微分II：高次導関数	・べき級数の収束と発散が解る。 ・高次導関数を微分できる。 ・テイラーの定理について説明できる。
		5週	積分II：不定積分	・不定積分ができる。
		6週	積分II：分数関数と三角関数の積分	・分数関数の積分ができる。 ・三角関数の積分ができる。
		7週	積分II：定積分	・定積分ができる。
		8週	積分II：定積分の応用	・面積や体積が求められる。 ・特定の範囲内の曲線の長さが求められる。
	4thQ	9週	微分II：偏微分	・偏微分ができる ・２変数関数の極地が求められる。 ・曲線の接線，法線の方程式を求められる。
		10週	積分II：重積分	・(二)重積分ができる。
		11週	微分II：微分方程式	・１階微分方程式を解くことができる。
		12週	微分II：微分方程式	・２階微分方程式を１階微分方程式に直して解くことができる。
		13週	代数：複素数	・複素数，虚数という日本語が解る。 ・複素数の四則演算ができる。
		14週	代数：複素数	・マクローリン展開，オイラーの公式について知っている。
		15週	代数：確率	・ド・モルガンの法則が使える。 ・二項定理を使って式を展開できる。 ・場合の数，順列，組合せという日本語が解る。
		16週	代数：統計	・度数分布表，母集団，標本，正規分布という日本語が解る。 ・分散，標準偏差が求められる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	演習	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	80	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本語Ⅵ

科目基礎情報

科目番号	0013	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	3
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材	①大学で学ぶための日本語ライティング（ジャパンタイムス）②読解厳選テーマ10中上級（凡人社）③留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解中上級（スリーエーネトワーク）　④practical Kanji 現代社会を読む700漢字vol. 1（ASK）　⑤新完全マスターN1語彙（スリーエーネットワーク）　⑥テーマ別上級で学ぶ日本語改訂版（研究社）		
担当教員	佐藤 和美,池田 智子		

到達目標

1.有意義な留学生生活を送るために、情報受信力（聞く・読む）と発信力（話す・書く）両方のバランスのよいコミュニケーションができるようになる。
2.漢字、語彙の一層の強化をはかり、適切な文章を書いたり、発話ができるようになる。社説のような文を読み理解し、さらにそれに対する自分の考察も日本語で出来るようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
読む	未習の語彙が含まれる文章を類推を用いて読むことが出来る。	辞書を用いて文章を読むことが出来る。	文章を読むのに大きな手助けを必要とする。
聞く	まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返せば、まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返しても、まとまりのあるテキストを聞いて全体から類推して情報を得ることが難しい。
話す	身近な話題について、自分の考え・意見を述べることが出来る。	こちらの手助けがあれば、身近な話題について、自分の考え・意見を述べることが出来る。	自分の考え・意見を述べることが難しい。
書く	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことが出来る	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことがやや難しい。	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	前期に引き続き、高専生活に適応していくために必要な日本語力を養成する。教材には日本事情・日本文化・時事的話題・科学読み物など幅広い分野を取り上げ、実際の使われ方を重視した授業活動・課題を用いて進める。これまで学んだ日本語を基礎に、更に語彙・漢字・表現力を広げ4技能（聞く・話す・読む・書く）のバランスの取れた日本語力を身につける。口頭表現（会話・報告・意見発表・スピーチなど）及び作文表現（メール・手紙・レポート・一般作文など）の力を養い、専門科目履修効果を高めると共に、コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業の進め方・方法	授業はタスク活動・演習を中心に行うので積極的に参加することが求められる。 （事前学習）ある程度分量のある日本語を読んだり聞いたりすることを通し、その中で使われる語彙・文法を身につける活動が授業の中心となるので、事前に内容に目を通し語彙などの確認をしておくことが望ましい。 （事後学習）授業後は小テストに備えての復習と毎回出されるテーマに基づいた作文の作成にあたること。
注意点	開講後、学生の日本語能力を判断した上で、授業内容や教科書を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	作文：状況を説明し、意見を述べる 読解：働かない働きあり？ 漢字：日本列島 語彙：動詞 教科書：健康ブームの光と影	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・日本地理/気候に関する漢字の強化 ・意味が沢山ある動詞の強化 ・内容理解強化
		2週	作文：体験したことを報告する文を書く 聴解：掃除　漢字：難しい漢字で書きますが・・・　語彙：副詞/形容詞 教科書：健康ブームの光と影	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・日本の産業に関する漢字の強化 ・副詞・形容詞的表現の強化 ・プレゼンテーション力強化
		3週	読解：血液型 聴解：本屋 漢字：日本の貿易 語彙：動詞/名詞 教科書：猫ばばと死刑	・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・日本の貿易に関する漢字の強化 ・意味が似ている言葉の語彙力強化 ・ニュースのリスニング強化
		4週	作文：テーマに沿った意見文を書く 読解：言葉の意味 漢字：日本の景気変動 語彙：漢語 教科書：猫ばばと死刑	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・日本の景気に関する漢字の強化 ・漢語の語彙強化 ・文法の強化

		5週	読解：IT社会 聴解：そば屋ののれん 漢字：日本の政治機構 語彙：和語 教科書：猫ばばと死刑	・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・日本の政治機構に関する漢字の強化 ・和語の語彙強化 ・内容理解強化
		6週	作文：自分をアピールする文を書く 聴解：卵かけご飯 漢字：内閣 語彙：副詞１ 教科書：猫ばばと死刑	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・内閣に関する漢字の強化 ・程度/時間/頻度の副詞語彙強化 ・プレゼンテーションカ強化
		7週	読解：Kawaii 聴解：剣道 漢字：国際首脳会議 語彙：副詞2 教科書：神の手/人の手	・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・国際会議に関する漢字の強化 ・後ろに決まった表現が来る副詞の語彙強化 ・ニュースのリスニング強化
		8週	作文：レポートを書くための基礎知識 読解：若者 漢字：国際連合 語彙：副詞３ 教科書：神の手/人の手	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・国際連合に関する漢字の強化 ・その他の副詞語彙強化 ・文法の強化
	4thQ	9週	作文：順序だてて、レポートを書く 聴解：落語 漢字：安全保障 語彙：オノマトペ１ 教科書：神の手/人の手	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・安全保障に関する漢字の強化 ・もの・人の様子を表すオノマトペ語彙強化 ・内容理解強化
		10週	作文：引用してレポートを書く① 読解：いじめ 漢字：地球温暖化対策 語彙：オノマトペ２ 教科書：神の手/人の手	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・地球温暖化対策に関する漢字の強化 ・人の様子のオノマトペ語彙強化 ・プレゼンテーションカ強化
		11週	作文：引用してレポートを書く② 聴解：そばをすする音 漢字：日本のエネルギー問題 語彙：慣用表現１ 教科書：コンピュータ夢物語	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・エネルギー問題に関する漢字の強化 ・体の言葉を使った慣用表現の強化 ・ニュースのリスニング強化
		12週	作文：資料を利用してレポートを書く① 読解：子どもの名前 漢字：ネット社会に関する漢字の強化 語彙：慣用表現２ 教科書：コンピュータ夢物語	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・ネット社会に関する漢字の強化 ・体の言葉を使った慣用表現の強化 ・文法の強化
		13週	作文：資料を利用してレポートを書く② 聴解：南極 漢字：日本の進学事情 語彙：語形成１ 教科書：コンピュータ夢物語	・専門的な文章を書くために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・日本の進学に関する漢字の強化 ・複合動詞の語彙強化 ・内容理解強化
		14週	読解：高齢化の中で 聴解：明治神宮の森 漢字：日本の少子高齢化 語彙：語形成2 教科書：コンピュータ夢物語	・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・大学で必要な日本語、特に講義や口頭発表を聴くための力の習得 ・少子高齢化に関する漢字の強化 ・複合動詞の語彙強化 ・プレゼンテーションカ強化
		15週	試験	
		16週	答案返却とフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	課題	作文	授業への取組みと小レポート	合計
総合評価割合	35	15	40	10	100
総合評価	35	15	40	10	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	一般科学演習Ｉ

科目基礎情報

科目番号	0012	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ｉ類（留学生）	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	資料配付		
担当教員	岩井 克全		

到達目標

学習に必要な各種電算機システムの利用方法，プログラミング，ディジタル技術やマイクロコンピュータ，電気回路，ネットワーキング技術の日本語による表記を理解し，基礎概念を理解し，その基本的な性質を利用して具体的な問題解決ができるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
取り扱い上の基礎知識	機器を取り扱ったり，利用する上で必要なマナーや安全策をとることができる。	助言を得ることで，利用する上で必要なマナーや安全策をとることができる。	利用する上で必要なマナーや安全策についの基本となる知識がない。
専門的な応用知識	自らの力で，必要な知識を選択し，問題解決に役立てられる。	助言を得ることで，必要な知識を選択し，問題解決に役立てられる。	知識が足りず，問題解決に役立てることができない。
技術的な取り扱い能力	自らの力で，機器を取り扱ったり，操作して，問題解決を図ることができる。	助言を得ることで，機器を取り扱ったり，操作して，問題解決を図ることができる。	機器を取り扱ったり，操作して，問題解決を図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本校３年次の専門科目の学習に必要である２年次までに履修する専門を修得する。また，必要な実習機器の利用方法や，環境整備を補助する。日本語による表記を理解し，不足している学習内容を補完し，３年次編入留学生の３年次授業への移行を補助する。また，３年次の専門科目での課題や復習を行う。
授業の進め方・方法	授業の前期は，様々な授業に必要な各種新規アカウントの更新と教育用電算機システムの利用法，そして各科目の２年次までに履修する専門をできる範囲内で行う。原則，対面式で行う。後期は，３年次の専門科目での課題や復習を中心に行う。対面式とオンディマンド式（自学）で行う。
注意点	逐一，授業での各科目の進捗度を確認し，不足な点を確認することが，取り組みへの基礎となる。また，必要に応じて実機を使用した授業を行う。学習に必要な各種電算機システムの利用は，卒業までの期間の授業全般に関わることであるから，今後も引き続き必要なものであることを心に据えて取り組む。便宜上，前期と後期に分けてあるが，状況に応じて，時期を柔軟に組み替えて実施する。授業前に内容を予習し、授業後に授業で学んだことを振り返り理解に努めてほしい。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	各種新規アカウントの更新と教育用電算機システムの利用法	・Ｕｎｉｆｉｅｄ－Ｏｎｅを使って自分のアカウントの統合認証管理ができる。 ・Ｇｍａｉｌを使って自分のアカウントのウェブメールで教職員とコンタクトができる。 ・ＢｌａｃｋＢｏａｒｄを使ってオンライン教材を利用した学習ができる。 ・Ｏｆｆｉｃｅ３６５を使ってＴｅａｍｓなどのオンライン会議システムを利用した学習ができる。
		2週	各種新規アカウントの更新と教育用電算機システムの利用法	・教務システムを使って自分の成績や出欠管理ができる。 ・履修登録システム（Ｋｏｓｅｎ学生Ｗｅｂシステム）の利用ができる。 ・学内無線ＢＹＯＤを使って個人端末からの無線ＬＡＮを利用した学習ができる。
		3週	各種新規アカウントの更新と教育用電算機システムの利用法	・教育用Ｗｉｎｄｏｗｓの利用ができる。 ・教育用ＵＮＩＸの利用ができる。 ・ＵＮＩＸの基本操作方法が解る。
		4週	各種新規アカウントの更新と教育用電算機システムの利用法	・ＵＮＩＸ上でのコマンドライン操作ができる。 ・ＵＮＩＸ上でのテキストエディタの利用ができる。 ・ＵＮＩＸ上でのプログラミングができる。
		5週	ディジタル技術とマイクロコンピュータ	・２進数１０進数が解り，相互に変換できる。 ・２進数８進数１０進数１６進数が解り，相互に変換できる。
		6週	ディジタル技術とマイクロコンピュータ	・論理演算ができる。 ・ビット演算ができる。
		7週	ディジタル技術とマイクロコンピュータ	・ＮＡＮＤ回路，ＮＯＲ回路，ＮＯＴ回路が解る。
		8週	ディジタル技術とマイクロコンピュータ	・代表的な加算機が設計できる。
	2ndQ	9週	ディジタル技術とマイクロコンピュータ	・ＮＡＮＤ回路を使って加算機を作れる。
		10週	ディジタル技術とマイクロコンピュータ	・加算機を使ってカウンタが作れる。
		11週	プログラミング	・変数の型の違いが解る。 ・変数の符号なしと符号ありと記憶との関係が解る。
		12週	プログラミング	・変数の通用範囲が解る。 ・変数の寿命が解る。
		13週	プログラミング	・ポインタ変数が解る。 ・ポインタ変数を用いたプログラムが作れる。

		14週	プログラミング	・構造体と共用体が解る。 ・構造体を用いて任意の型が作れる。
		15週	プログラミング	・関数の値引き渡しと、参照引き渡しの違いが解る。 ・関数の値引き渡しと，参照引き渡しの違いを使い分けたプログラムが作れる。
		16週	プログラミング	・標準入力，標準出力，標準エラーについて解る。
後期	3rdQ	1週	プログラミング	・パイプとリダイレクトが解る。 ・パイプとリダイレクトを使える。
		2週	プログラミング	・ファイル処理を行うプログラムを作れる。
		3週	プログラミング	・リストやツリーが解る。
		4週	プログラミング	・ソートの代表的なアルゴリズムが解る。 ・ソートプログラムが作れる。
		5週	電気回路	・代表的な素子（レジスタ，キャパシタ，インダクタ）と、その性質の違いについて解る。
		6週	電気回路	・オームの法則やキルヒホッフの法則を使って直流回路の問題を解くことができる。
		7週	電気回路	・交流回路での電力と実効値が解る。 ・フェザー図が解る。
		8週	電気回路	・交流回路での素子（レジスタ，キャパシタ，インダクタ）の性質が解る。
	4thQ	9週	電気回路	・フェザー図を使ったベクトル計算ができる。 ・インピーダンスとアドミタンスが解る。
		10週	電気回路	・複素数を使った交流回路の計算ができる。
		11週	ネットワーキング技術	・ＩＰアドレスの仕組みと，役割が解る。
		12週	ネットワーキング技術	・ポート番号とＩＰアドレスとＭＡＣアドレスが解る。
		13週	ネットワーキング技術	・ネットワークアドレスとホストアドレスとデフォルトゲートウェイが解る。 ・端末に，ネットワークアドレスとホストアドレスとデフォルトゲートウェイを設定することができる。
		14週	ネットワーキング技術	・ＤＮＳの仕組みが解る。 ・ＤＮＳに問い合わせて確かめることができる。
		15週	ネットワーキング技術	・ＯＳＩ参照モデルの階層構造が解る。 ・各層の役割，データ単位，代表的なプロトコルが解る。
		16週	ネットワーキング技術	・ＴＣＰ／ＩＰモデルの階層構造が解る。 ・各層の役割が解る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	説明	実技	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	20	20	40
専門的能力	20	20	40
分野横断的能力	10	10	20

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本語Ⅶ

科目基礎情報

科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳（国書刊行会）、「レポート・論文を書くための日本語文法」（くろしお出版）		
担当教員	佐藤 和美		

到達目標

1.中上級日本語の語彙・表現・読解力を確実なものにし幅広く運用できるようになる。
2.口頭表現（説明・報告・発表・討論など）の力を向上させ、客観的に自分の意見を伝えることができるようになる。
3.実際のレポートや論文の例文に多く触れ、レポートや論文を書くために必要な文法を使い分けることができるようになる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
読む	未習の語彙が含まれる幅広い分野からの文章を類推を用いて読むことが出来る。	辞書を用いて文章を読むことが出来る。	文章を読むのに大きな手助けを必要とする。
聞く	幅広い分野からのまとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返せば、幅広い分野からのまとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返しても、まとまりのあるテキストを聞いて全体から類推して情報を得ることが難しい。
話す	様々な話題について、自分の考え・意見をより自然に述べることが出来る。	こちらの手助けがあれば、様々な話題について、自分の考え・意見をより自然に述べることが出来る。	より自然に自分の考え・意見を述べることが難しい。
書く	様々な話題について、表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことが出来る	様々な話題について、表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことがやや難しい。	様々な話題について、表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	日本語能力試験N1レベルの語彙・漢字・表現・文法の力を十分に発揮できることを目指して、4技能（聞く・話す・読む・書く）を関連づけた演習やタスク活動を中心に進める。日本語での情報受信力（聞く・読む）を確実にすると共に、発信力（話す・書く）の向上をはかる。公的・社会的な場面でも通用する日本語運用力を身につけることを目指す。
授業の進め方・方法	（事前学習）授業では、幅広い分野の日本語に触れ、様々なテーマについて自分の考えを発表するので、あらかじめ資料に目を通し語彙などは確認しておくこと。 （事後学習）授業後はそれぞれのテーマに基づいて更なる情報を集めるなど発表の準備にあたること。
注意点	開講後、学生の日本語能力を判断した上で、授業内容や教科書を変更することがある。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	・レポート・論文の文法1課-1 書き言葉に統一する　-書き言葉の文体と表現-	・書き言葉の文末と接続表現を用い、レポート・論文にふさわしい文章にする。 ・使用する語彙や表現も書き言葉にすることにより文体を統一する。
		2週	・レポート・論文の文法1課-2 ・口頭発表①紹介スピーチ１「わたしの好きなもの（こと）」	・自分と関連のあるものを分かりやすく紹介する。
		3週	・レポート・論文の文法2課-1 文の意味を明確にする　-複文の適切な使い方-	・同じ接続表現を避け、文の意味を明確にし誤解を与えない文にする。 ・長文を避け、意味を分かりやすくし読みやすい文にする。
		4週	・レポート・論文の文法2課-2 ・口頭発表②紹介スピーチ2「わたしの故郷」	・自分の出身国について客観的に紹介する。
		5週	・レポート・論文の文法3課-1 「こと」と「の」を使い分ける　-名詞節「こと」と「の」の使い分け-	・名詞節の「こと」と「の」の適切な使い分けにより文法的な間違いをなくして読みやすくすることが出来、学術的な文章にふさわしいスタイルに出来る。
		6週	・レポート・論文の文法3課-2 ・口頭発表③紹介スピーチ3「わたしのおすすめの本」	・選んだ理由を考え、著者や内容への興味を具体的にまとめて伝える。
		7週	・レポート・論文の文法4課-1 文をシンプルにする　-語や節の名詞化-	・名詞化により前文の表現や「～こと」の重複を避けることが出来る。
		8週	・レポート・論文の文法4課-2	・名詞化を正確に行うことで簡潔で分かりやすい文にする。
	2ndQ	9週	・レポート・論文の文法5課-1 語彙を適切に選択する　-レポート・論文でよく使う語彙の使い分け-	・類義語を文脈によって使い分けたり、漢語を適切に使うことで読み手にわかりやすいレポート・論文にすることが出来る。
		10週	・レポート・論文の文法5課-2 ・口頭発表④紹介スピーチ４「わたしの尊敬する人物」	・自分が尊敬する人について、どのような人か、どんな活動をしているかについて発表する。

		11週	・レポート・論文の文法6課-1 文を首尾一貫させる　-文頭と文末の呼応-	・文頭と文末の呼応により自然で理解しやすい文にすることが出来る。 ・疑問詞や副詞との呼応により文の意味を誤解なく伝えることが出来る。
		12週	・レポート・論文の文法6課-2 ・口頭発表⑤新聞／雑誌記事紹介	・記事を選び、要旨をまとめて発表する。
		13週	・レポート・論文の文法7課-1 形が似ている表現を使い分ける　-助詞相当語の使い分け-	・助詞相当語の適切な使い分けにより、事実の情報源、レポートのテーマ、行為の対象などを明確に伝えることが出来る。
		14週	・レポート・論文の文法7課-2	・助詞相当語の使い分けにより、ある評価や価値判断について、誰が持っているのか、誰・何についてのものか、どのような立場からものかを明確に伝えることが出来る。
		15週	試験	
		16週	答案返却とフィードバック	
後期	3rdQ	1週	・レポート・論文の文法8課-1 「は」と「が」を使い分ける　-助詞「は」と「が」の使い分け-	・「は」と「が」の使い分けにより、主語をはっきりさせ長文でもわかりやすい文にすることが出来る。
		2週	・レポート・論文の文法8課-2 ・口頭発表⑤意見の主張1 -賛成（支持の立場から）意見を述べる	・「なぜそう思うのか」客観的な根拠に基づいて意見を述べる。
		3週	・レポート・論文の文法9課-1 書き手の視点を示す　-他動詞・自動詞（使役形・受身形）-	・他動詞・自動詞（使役形・受身形）の使い分けにより、視点が統一された読みやすい文にすることが出来る。
		4週	・レポート・論文の文法9課-2	・他動詞と自動詞（使役系と受身形）の使い分けによって、レポート・論文全体の中で、解説・背景説明の部分なのか、筆者の行為や出来事の責任者・要因を表す部分なのかを示すことが出来る。
		5週	・レポート・論文の文法10課 -1 過去と現在のつながりを示す　-ル形・タ形・テイル形・テイタ形－	・ル形・タ形・テイル形の使い分けにより取り上げる出来事の「時」を正しく表す。
		6週	・レポート・論文の文法10課 -2	・タ形・テイル形の使い分けにより、出来事の報告なのか参考資料からの引用かの違いをはっきりさせる。
		7週	・レポート・論文の文法11課-1 文章の中の語を指し示す　-指示詞「こ」と「そ」の使い分け-	・コ系指示詞とソ系指示詞の使い分けによりレポート・論文の中心的なテーマに関わる語かどうかを表すことが出来る。
		8週	・レポート・論文の文法11課-2 ・口頭発表⑥意見の主張2 -反対（支持の立場から）意見を述べる	・「なぜそう思うのか」客観的な根拠に基づいて意見を述べる。
	4thQ	9週	・レポート・論文の文法12課-1 前後の関係を示す　-接続詞・接続表現の使い分け-	・接続詞・接続表現により、前後の語・節・文がどんな関係かを示すことが出来る。
		10週	・レポート・論文の文法12課-2	・意味や形化似ている接続詞・接続表現を使い分けることで文章をより正確に、論理的に表すことが出来る。
		11週	・レポート・論文の文法13課-1 前の文に関係づける-「のだ文」の使い方-	・「のだ文」によって前の文の内容に関係する文であることを示すことが出来る。 ・「のだ文」によって前の文に対する疑問や、前の文の内容の原因・結果・言い換え・結論・データ解釈、段落のまとめ等を表すことが出来る。
		12週	・レポート・論文の文法13課-2 ・口頭発表⑦ディスカッション	・特定のテーマについて、相手の意見をお互いに理解し合いながら話し合い、「どうしたらいいか」を考える。
		13週	・レポート・論文の文法14課-1 効果的に意見を述べる-意見を述べる文末表現の使い分け-	・ル形、テイル形の使い分けにより自分の意見と他者の意見や一般的な意見を区別できる。
		14週	・レポート・論文の文法14課-2	・適切な文末表現を使用することで、事実と意見・判断の区別が出来、レポート・論文の論理性や客観性を高めることが出来る。
		15週	試験	
		16週	答案返却とフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	発表	課題レポート	授業中の取り組み	合計
総合評価割合	40	40	20	100
総合評価割合	40	40	20	100

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	一般科学演習Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ⅰ類（留学生）	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	岩井 克全		

到達目標

情報通信コースの4年次の留学生向けに，専門科目に関係する基礎知識，専門用語として用いられる日本語，英語等に関して演習形式の授業を行う。また，報告書や発表資料のまとめ方について留学生のレベルに合わせた指導を行い，日本語での成果発表，論文執筆の技術の向上を目的とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
コミュニケーション能力	コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを行うことができる。	様々な方法でコミュニケーションを図ろうとしている。	日本語で他者とコミュニケーションすることにおいて消極的である。
専門的能力（数学）	専門知識を用い，基本的な数学を説明できる。	基本的な数学について，書いたりすることができる。	基本的な数学について，書いたりすることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	数学に関する知識の獲得を中心に進めながら，基本的な数学を日本語で理解し説明する技術を学ぶ。
授業の進め方・方法	教員と1対1で授業を行い，演習などを通して日本語での表現方法や専門知識の習得を行う。
注意点	授業前に内容を予習し、授業後に授業で学んだことを振り返り理解に努めてほしい。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	一般科学演習IIの数学演習の進め方。
		2週	数学演習1	行列式を説明できる。
		3週	数学演習2	ベクトルを説明できる。
		4週	数学演習3	三角関数を説明できる。
		5週	数学演習4	微分を説明できる。
		6週	数学演習5	定数項の微分を説明できる。
		7週	数学演習6	合成関数の微分について説明できる。
		8週	数学演習7	三角関数の微分について説明できる。
	2ndQ	9週	数学演習8	不定積分について説明できる。
		10週	数学演習9	置換積分について説明できる。
		11週	数学演習10	部分積分法について説明できる。
		12週	数学演習11	定積分ついて説明できる。
		13週	数学演習12	置換定積分法について説明できる。
		14週	数学演習13	部分定積分法について説明できる。
		15週	振り返り	前期に得た知識の振り返りを行い，知識を定着させる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	実習	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	50	50
専門的能力	50	50

仙台高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	一般科学演習Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合工学科Ｉ類（留学生）	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	岩井 克全		

到達目標

情報通信コースの4年次の留学生向けに，専門科目に関係する基礎知識，専門用語として用いられる日本語，英語等に関して演習形式の授業を行う。また，報告書や発表資料のまとめ方について留学生のレベルに合わせた指導を行い，日本語での成果発表，論文執筆の技術の向上を目的とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
コミュニケーション能力	コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを行うことができる。	様々な方法でコミュニケーションを図ろうとしている。	日本語で他者とコミュニケーションすることにおいて消極的である。
専門的能力（数学）	専門知識を用い，基本的な数学を説明できる。	基本的な数学について，書いたりすることができる。	基本的な数学について，書いたりすることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	数学に関する知識の獲得を中心に進めながら，基本的な物理現象を日本語で理解し説明する技術を学ぶ。
授業の進め方・方法	教員と1対1で授業を行い，演習や課題などを通して日本語での表現方法や専門知識の習得を行う。
注意点	授業前に内容を予習し、授業後に授業で学んだことを振り返り理解に努めてほしい。

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	一般科学演習IIIの進め方について理解する。
		2週	数学演習1	関数の展開を説明できる。
		3週	数学演習2	関数を級数展開することができる。
		4週	数学演習3	マクローリンの定理を説明できる。
		5週	数学演習4	関数をマクローリンの定理展開して、級数の形で示すことができる。
		6週	数学演習5	オイラーの公式を説明できる。
		7週	数学演習6	二項定理を説明できる。
		8週	数学演習7	二項定理を用いて式の値の近似値を求めることができる。
	4thQ	9週	数学演習8	フーリエ級数を説明できる。
		10週	数学演習9	交流電圧がフーリエ級数で与えられる場合の実効値を求めることができる。
		11週	数学演習10	基本波と第2高調波を合成したひずみ波信号を求めることができる。
		12週	数学演習11	微分方程式を説明できる。
		13週	数学演習12	微分方程式の解を求めることができる。
		14週	数学演習13	電子回路と微分について説明できる。
		15週	振り返り	後期に得た知識の振り返りを行い，知識を定着させる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	演習	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	50	50
専門的能力	50	50